

報道関係 各位

バイオテック情報普及会

農業とバイオテクノロジーを学ぶ高校生を応援します 『第 2 回高校生科学教育大賞』募集開始

バイオテック情報普及会は、高校生の農業とバイオテクノロジーの理解促進につながる科学教育活動への支援を行う「第 2 回高校生科学教育大賞」を、平成 30 年 2 月 22 日から 4 月 27 日まで募集します。

バイオテック情報普及会は、持続可能な農業の実現や食料の安定供給への貢献を念頭に、バイオテクノロジーの重要性をご理解いただくため、様々な活動を行っております。その一環として、これからを担う高校生の皆様に「持続可能な農業」と「植物バイオテクノロジー」についてより深く学び考えるきっかけとしてもらうことを目的に、平成 29 年に「高校生科学教育大賞」を設立し、支援対象となる科学教育活動を公募いたしました。

第 1 回となった昨年(平成 29 年)は、全国各地の高校から合計 28 件の応募を頂きました。3 名の外部審査委員を含めた選考委員会において、各校より提出された申請書類に基づき厳正な審査を重ねた結果、山形県立米沢興譲高等学校が最優秀校に選ばれ、活動資金として 100 万円が支援されました。

第 2 回目となる本年も、農業とバイオテクノロジーに関連する活動計画やアイデアをお持ちの高校の先生及び生徒さんのご応募をお待ちしております。

つきましては、以下の募集概要を貴紙に掲載していただければ幸いです。

【バイオテック情報普及会 第2回高校生科学教育大賞 募集概要】

募集対象:	高等学校、高等専門学校における学校行事・部活動等の科学活動。
主 旨:	生徒自身または一般消費者の「持続可能な農業」や「植物バイオテクノロジー」への理解が促進されるような、実現可能で具体的な科学活動を支援する。活動は国内外を問わない。 支援活動の例: イベント開催、視察見学、事例研究、調査報告、実験等。
支援内容:	最優秀校(1校)、優秀校(数校)に選ばれた学校に、申請した活動費用の一部または全額を支援する。1校当たり100万円を上限とする。
選考方法:	当会会員企業及び下記の外部委員からなる選考委員会による審査の上、採用を決定。 <ul style="list-style-type: none">● 小泉 望氏(大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授)● 小島 正美氏(毎日新聞 東京本社 生活報道部 記者)● 高島 賢氏(農林水産省 消費・安全局 農産安全管理課 審査官)
応募方法:	指定の申込書に活動計画及び支援金の使用方法等を記載し、当会へ提出。
応募締切:	平成 30 年 4 月 27 日 当日消印有効

申込書及び本大賞の詳細は以下ウェブサイトをご覧ください。

<https://cbijapan.com/education/>

以上

【本件に関するお問い合わせ先】
バイオテック情報普及会 事務局
電話: 03-3525-4805
メール: secretariat@cbijapan.com

※バイオテック情報普及会(英名: Council for Biotechnology Information Japan, CBI Japan)は、植物科学やバイオテック作物の開発企業で構成する国際組織「クロップライフ・インターナショナル(本部ブリュッセル)」傘下の任意団体で、2001年10月1日に設立されました。
会員企業: シンジェンタジャパン株式会社、ダウ・アグロサイエンス日本株式会社、デュポン・プロダクション・アグリサイエンス株式会社、日本モンサント株式会社、バイエル クロップサイエンス株式会社、BASF ジャパン株式会社 (50音順)